

2018.1.5
Vol. 54

北海道サケ ネットワーク Newsletter

発行 阿部周一
事務局 木村義一 札幌サケ協議会
〒004-0022
札幌市厚別区厚別南7丁目18-19
Tel/Fax: 011-894-0081
e-Mail: giichiketa@yahoo.co.jp
URL: <http://salmon-network.org/>
編集 寺島一男

新年あけまして
おめでとうございます



お知らせ

2018年度総会 旭川で開催

北海道サケネットワークの2018年度総会およびサケ会議を、野生のサケが回復しつつある旭川で開催することになりました。詳細は改めてお知らせしますが、参加をお願いいたします。

会議の日程と概要

- 主催…北海道サケネットワーク
- 主管…あさひかわサケの会
大雪と石狩の自然を守る会
- 期日…5月26日(土)～27日(日)
- 場所…旭川市神楽公民館
旭川市神楽3条6丁目1-12
電話 0166-61-6194
- 費用…参加費無料
- 日程…[26日]
北海道サケネットワーク役員会
北海道サケネットワーク総会
北海道サケ会議
参加者交流会
[27日]
現地見学会

役員会・総会

- 役員会 (13:00～13:15)
会場…旭川市神楽公民館研修室
内容…総会打合せ・総会提案事項等
運営…サケネット事務局
- 総会 (13:15～13:45)
会場…旭川市神楽公民館講座室
内容…総会議事・参加団体報告等
運営…サケネット事務局
《休憩》(13:45～14:00)

北海道サケ会議

- 概要 (13:45～17:00 一般公開)
会場…旭川市神楽公民館講座室
資料…資料代500円(希望者)
運営…あさひかわサケの会
大雪と石狩の自然を守る会

2.内容 (13:45～14:00)

- ①開会のあいさつ
- ②主催者あいさつ
- ③メッセージ
- ④講演 (14:15～15:30)
演題「上川アイヌとサケ」(仮題)
講師…瀬川拓郎さん(旭川市博物館長)
- ⑤テーマトーク (15:45～17:00)
テーマ「子どもたちにサケを」
- ⑥閉会あいさつ

参加者交流会

- 1.時間…18:00～20:30
- 2.会場…レストラン プリミエール
旭川市1条通9丁目コートホテル
旭川B1F 電話 0166-26-5607
(旭川駅から徒歩5分)
- 3.会費…4000円(飲み放題)

現地見学会

- 1.時間…8:30～11:45
- 2.集合…JR旭川駅東口コンコース
8:30集合 11:45解散
- 3.見学…忠別川・北彩都・旭川市博物館
- 4.費用…500円(入館料等)
- 5.コース…JR旭川駅東口→北彩都(大池周辺)
→神楽橋・神楽岡公園(サケ放流地点)
→忠別川左岸→旭川市博物館(見学)
→忠別橋→JR旭川駅西口コンコース(解散)
※全行程…約4キロ



Event Corner

「おいしい！さけクッキング」

師走を間近にした11月18日、サケについて学んで、サケを食べよう！を合い言葉に、さけクッキングが開かれた。旭川市神楽公民館が企画した「お試し講座」を利用して、「あさひかわサケの会」と「大雪と石狩の自然を守る会」が共同して開催した。

当日は募集定員(25名)を超える29名(子ども8名、おとな21名)が参加。スタッフ11名を加えた40名が、ちゃんちゃん焼きとサケ鍋に舌鼓を打った。クッキングに入る前にサケの学習とサケの解剖も行われ、参加者は改めてサケのすばらしさを確認した。

「70歳にして初めて食べました。味噌の味が美味しく楽しい時間でした」「サケの生態をもう少し詳しく聞いてみたかった。来年も参加したいです」など、たくさんの感想が寄せられた。



情報をお寄せ下さい！

次号から、加盟団体の紹介をしたいと思います。どうぞ協力をお願いします。情報がありましたら下記(編集)へ。

E-mail: tera2112@potato.ne.jp



サケ News

サケ資源の低迷が続く !!

北海道では今期のサケ漁が終了しました。最終的な来遊数（海と川で獲ったサケの合計数）はまだ纏まっていませんが、今年は2千万尾前後になりそうです。この数字は、来遊数の減少傾向が問題視された昨年を更に30%以上も下回っており、1997年や2007年の最盛期に比べると半分以下、1980年代前半に逆戻りした値です（図1）。減少した理由は明らかになっていませんが、以前のニュースレターでも紹介したように、春季の海水温が低い年は海へ降りたサケ稚魚の生き残りも悪くなるのではないかと、という説があります（さけます・内水面水産試験場）。しかし、来遊数の減少傾向は10年余り続いていることから、沿岸の低水温だけで理由を説明することは困難です。この点について、北海道大学の帰山先生は、アリューシャン低気圧^{注1}や地球温暖化など、地球規模の気候変動がサケの回遊や生き残りに影響している可能性を指摘しています。



図2. 卵が抜き取られて放置された雌サケ
(朝日新聞 DIGITAL)

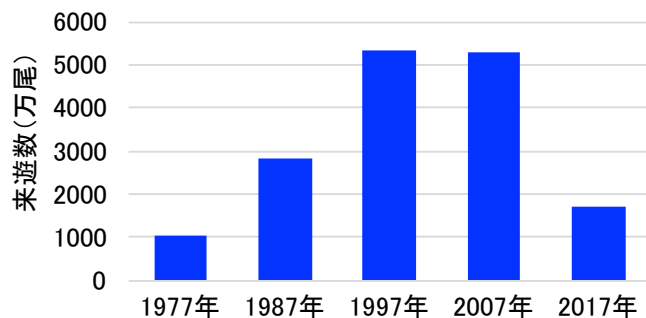


図1. 北海道におけるサケの来遊数の変化。(2017年は暫定値)

果たしてこの減少がいつまで続くのか、目が離せません。

サケの来遊数の減少は、様々な方面に波紋を広げました。例えば食卓への影響です。東京都中央卸売市場の調べによると、イクラ丼や回転寿司、おせち料理などに欠かせないイクラの値段は2017年11月で7500円/kgを超え、昨年同期より30%も高く、10年前に比べると2倍以上にも達しています（東洋経済）。今年のイクラは高額の花になってしまいました。一方、イクラの高値はサケの盗難や密漁も助長したようです。なかでも、増殖事業用に捕獲した雌のサケから卵だけを抜き取る悪質なものが例年になく多く（図2）、増殖関係者にとっては気が滅入る一年でもありました。

余談ですが、資源が減少している水産物はサケだけではなく。例えば、北海道の代表的な味覚であるサンマ、ホッケ、スルメイカなども軒並み漁獲量の減少が続いており、漁師さんたちを悩ませています。これらが減少した理由も明らかではありませんが、乱獲や海洋環境の変化、諸外国の影響などが挙げられています。このうち乱獲については、水産庁が試験研究機関の調査結果に基づいて漁獲可能量（TAC^{注2}）を定める

など、獲り過ぎを防ぐ対策が取られています。一方、サケの場合、来遊数の減少が予想される年は定置網の漁獲を一時休止し、川へ昇らせる増殖事業用の親魚を確保する措置を取っています。

このように、北海道を取り巻く水産環境は厳しい状況が続いておりますが、2018年度は少しでも明るい話題をお届けしたいものです。

注1：シベリア気団が勢力を増し、冬季にアリューシャン列島付近で発達する低気圧。

注2：Total Allowable Catchの略。

(伴 真俊)

連載

さけ ア・ラ・カルト

サケとオレオレ詐欺



サケの銘柄の中でも代表格の「ケイジ」。秋の終わり頃に知床半島付近の網で獲れる何万尾に1尾の希少なサケ。値段も1尾数万円とか。その高貴な「おサケ様」を「詐欺師」と書いては不敬罪に問われるだろうか。

まだこの「おサケ様」が一般に知られていない頃は殆ど市販されず、もっぱら地元漁師のご馳走であった。それが「ケイジ」として広く知られるようになったのは、1900年代の終わり頃に、あるテレビ局が現地取材で「ケイジ」と報じてからで、「鮭児」との整合性もあって疑いなき「ケイジ様」になったのであるが……。実は、大正時代から「ケイジ」と呼んでいる別の種類があった。『小樽、函館市場にてケイジと呼ぶものはギンマスなり』（鮭鱒人工繁殖論・昭和2年刊）。

ギンマス（ギンザケと同じ）は日本の川には上らないが、北洋漁業時代には国内に広く流通していた。また、夏の終わり頃に僅か

ではあるが北の海を南下し、根室付近の沿岸で漁獲されることがあり、地元ではこれを「ケイジ」と呼んでいた。ギンザケを何故「ケイジ」と呼ぶようになったかについては定かではないが、ロシアや北米ではギンザケを《キジューチ》と学名で呼んでおり、北洋漁業盛んな頃にはロシアとの交流が盛んであったことから、東北訛りの作業員が《ケイズイ》と訛り《ケイジ》になった・・・私の想像である。

さて、「ケイジ」を「鮭児」と書くことあっては、まさか「偽もの」とは思うまい。本物以上に化ける虫の擬態や、息子以上に息子らしく化ける「オレオレ詐欺」も及ばぬ化けぶりである。

私は、まだ「ケイジ」が化けない時代に根室管内にいたことがあって、幸運にも本物ケイジと偽物ケイジを食べたことがあった。それぞれの地で「とにかく旨いから」の触れ込み通りに両方とも旨かった。え!どちらかに軍配を上げろと?

まあ、偽物は本物に叶わない、としておこう。

(G)